

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	宇佐美あけぼの園			
○保護者評価実施期間	2025年 10月1 日 ～ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2025年10 月1日 ～ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重度のご利用者様が多く、介護福祉士資格者が在籍し、食事介助、排泄介助、着脱介助、歩行介助等に対応可能。	同性介助を基本に、定時におむつ交換、排泄介助を行っている。	介護福祉士資格を保有する指導員による介護研修を行う。
2	5領域に基づくご利用者様への個別療育、作業療法士による専門的支援を行っており、面談時に作業療法士から専門的支援内容について保護者様に説明させて頂いている。	児発管・保育士・教員・介護福祉士の経験者がそれぞれの役割を担い、報告・連絡・相談を密にして支援にあたっている。	個別の支援プログラムを実施できるように研修を行っていく。
3	保護者様との信頼関係により、情報共有が、事業所側とコミュニケーションが密にとれている。	保護者様に電話や公式ライン、お送り時にその日の様子について話をしている。	まずは管理者・児童発達支援管理責任者が保護者様からの質問にしっかり回答できるようになり信頼関係を深めていく。 全職員で研修等を行い、保護者様との対話を重ねて信頼関係を構築する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所で、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)を行う。	バリアフリーだが、個室が無い。保護者様も仕事等で日時の調整が難しい。	・簡易なパーティションで区切った空間を作る。
2	家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等、家族への支援。	家族に必要な研修内容や要望についての情報収集と研修の広報活動が足りていない。	個別支援計画書及び専門支援計画書を軸に家族にどのような支援のニーズが必要かを把握するために、個別支援計画書または専門支援計画書の更新時等に面談にて伺う。
3	父母の会の活動の支援や保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど家族への支援。	保護者が様の仕事等により、日時の調整が困難であることと、参加希望者が少ない(送り時に家で話してほしいという要望が多い)。	本件を個別の案件として家族または保護者様にアンケートにて伺う。